

第 1 部

職業訓練校の入校選考の概況

1. 入校の手続

入校志願者は、中高年齢者（以下、単に中高年という）と学卒者（以下単に学卒という）に分けられ、それぞれ入校願の受付が行なわれている。

中高年の入校志願者は職業安定所での職業相談のうえ、訓練受講のための入校願を提出することになるが、その際原則として適性検査を受け、その評価した書類と一括して校に提出される。

2. 入校選考

入校選考は適性検査、学科試験、面接、体格検査（体重、身長、視力、聴力は申告、色盲のみ検査）を総合的に勘案して決定されるが合格後、保健所の診断書を提出することになっている。

中高年の志願者は原則として事前に適性検査をすませているので、入校選考は面接と体格検査のみが実施される。適性検査の結果はA・B・Cの3段階で評価されこの評価のうちAが最もよく、B・Cの順で考慮されることになっている。

なお、訓練校の願書のメ切日が切迫し、職業安定所での職業相談を受けたものの、適性検査をうける時間的余裕がなかったものは選考日の当日、校が補完的に面接を行なうまえに適性検査を行なっている。

次に面接であるが「個別面接」の形で行なわれ、その目的は学習意欲をもっているのかどうか、感情安定度や、社会性はどうかなどを対話のなかで知るために行なわれるもので、面接時間は志願者の数にもよるが1人あたり2～3分のごく短時間である。

その後、合否の判定会議がもたれ各種の選考資料（適性検査の評価、学科試験の採点、面接の結果、身体検査表）が入校選考一覧表にまとめられ、会議に提出され検討のうえ合否が決定される。

このとき適性検査の評価の取扱い是一種の学科試験と同等の役割を担わされている。

なお、選考は適性検査、学科試験、面接、体格などの各検査結果表作成、これらの総合資料一覧表の作成、判定会議とこれらを全部選考日当日、1日間に完了するように計画されていて、いわゆる時間的には圧縮形の入校選考となっている。

所見：入校選考を時間的に1日としているところに問題があるようでもっとゆとり

のあるほうが望ましいように思える。

というのは、応募者が、訓練職種によっては訓練定員を大巾に上回るものもあり、また逆に、下回る職種も存在するからである。

このような事情のもとで限定時間内での選考は多数の応募者のいる職種と応募者の少ない職種では1人あたりの選考時間に差を生じ、ひいては選考内容の濃密度に違いを生ずるとも考えられる。従って、この単独面接方式をもっと工夫をこらすとかグループ別にして選考時間に余裕をもたせるとか、とにかく改善方策を考慮する必要があるように思われる。もし時間的に余裕のある入校選考ができるとすれば、適性検査の評価は、応募者一人一人の適性に合った訓練職種をさがし出してそれに配置していくといった細かいところまで気をくばることに役立つであろうし、同時に実施されている他の学科試験などの評価とは全く別の独立した位置からの活用が可能になるものと考ええる。